

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3891300075
法人名	医療法人 明生会
事業所名	グループホームこもれびの家
所在地	愛媛県四国中央市下柏町5 4 番地 1
自己評価作成日	H 2 6 年 2 月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

広い窓から四季の風景を眺めることができ、天候や自然の移り変わりがよくわかり、ウッドデッキとゆったりとした環境の中「いつも一緒・楽しく・ゆっくりと」「人と人の結びつきを大切に」を心がけ利用者様と共に生活しています。季節の食材を使いバランスのとれた食事・季節感を味わって頂けるよう利用者様と一緒に作り食を楽しんでいます。地域の方・ボランティアの方々の訪問を大切に交流を行っています。母体が病院でいつでも受診でき、また訪問看護と連携をとり適切な受診や看護を受けられるよう支援を行っています。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年2月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

年3回、家族会を実施しておられ、ほぼ全員のご家族が参加されている。ご家族も一緒に食事できるよう企画し、今年度は、利用者のご家族が営む食堂で作ってもらったお弁当を囲み、みなでおいしく食事をされた。ご家族同士が知り合いだったことが分かったり、以前の利用者の暮らしぶりを教えてもらう等してよい機会になったようだ。ご家族の中には、「昔は穏やかな性格だったが最近では口調がきつくなった」と利用者の様子に戸惑う方もあり、管理者は認知症について少しお話をされたこともあった。

前回の外部評価を受け、職員のスキルアップ研修について話し合われ、今年度は、毎月内部研修を行うことに決め、毎月、職員1名が「知りたいこと」「勉強したいこと」をテーマに挙げ、自分で調べて発表することに取り組まれた。「転倒事故の予防と対策」「感染予防対策」「食中毒、便秘、下痢時の対応」等のテーマで実施された。又、法人全体で取り組む年2回の「Q.C.」（疑問等を改善していく会）では、事業所の目標「口腔体操と嚥下について」の取り組みを報告された。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印		項目		取り組みの成果 該当する項目に 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと	
		3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームこもれびの家

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

加地正子

評価完了日

平成26年2月1日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
.理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 職員はもとより訪問者の目にも止まりやすい位置に掲示して いる。月に一度のミーティングでも確認し、その都度原点に 返り理解と共有を意識づけケアへと繋げるよう心がけている。	
			(外部評価) 事業所では、「いつも一緒・楽しく・ゆっくりと」「人と人との結 びつきを大切に」を理念に掲げ、玄関に入ってすぐの廊下に 掲示されている。又、「あせらず、あわてず、あきらめず、あか るく、あたたかく」の「5つのあ」と、「さわやか、さらり、さりげな く関わる」の「3つのさ」を、日々のケアの中で実践できるよう に取り組んでおられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 近隣の決まった人達との関わり(野菜を戴く・子供達との交 流)はたまにある。地域のお祭りにはホームの近くまで子供 太鼓が来てくれる。今年は雨でしたがシートをかけ来て下さ る。また廃品回収など子供たちが連絡してくれ参加してい る。地域の学生ボランティア・傾聴ボランティアを通し交流し ている。	利用者が今後も地域とつながり暮らし続けられるよう、地域 行事等に参加する等、地域に出かけていくような取り組み もすすめていかれてはどうか。
			(外部評価) 事業所の裏に広がる畑では、時々近所の子供達も遊んで おり、職員が声を掛け、一緒におやつを食べることもある。 又、七夕の頃には、保護者も一緒に数名の子供達も来てく れて、一緒に笹飾り作りをされた。事業所では毎年、地域の 福祉専門学生のボランティアを受け入れておられる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議や家族会等を活用し、認知症の人の理解を 深めていただけるよう働きかけている。地域への貢献はでき ていない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ホームでの生活状況や問題点等の報告や話し合いを行い、助言や地域の情報を得ている。頂いた意見を取り入れサービス向上に努めている。避難訓練の様子を見て頂き、消防署の方より地域の方も一緒に消火器の使い方を指導して頂いた。	
			(外部評価) 会議には、利用者、ご家族、市の職員、民生委員、自治会の広報の方が参加されている。地域役員の任期を終えた方が続けて参加してくれたり、遊びに来ていた子ども達が参加するようなこともある。会議では、事業所の取り組みや外出、行事の報告を行い、地域の方からは、地域行事を教えてください。年1回は、お昼の時間に会議を行い、利用者と一緒に昼食を楽しむ機会を設けておられる。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	(自己評価) 月に1回ふれあい相談員さんの訪問がある。運営推進会議に高齢介護課の方が参加してくれている。市町村の行事にも出来るだけ参加し協力関係を築けるよう努めている。毎月のグループホーム便りを市に送っている。	
			(外部評価) 月1回、傾聴ボランティア・ふれあい相談委員の方が事業所へ訪問して下さり、こまやおはじき等で遊びながら、利用者のお話を聞いてくれている。運営推進会議時に、市の担当者からは、市主催の「物忘れ相談」の研修会があることを教えていただき、事業所の職員が参加する予定となっている。市の担当者の方には、事業所の便りと運営推進会議の議事録をみてもらっている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員は身体拘束について研修、勉強会で理解しているが、帰ろうとされる利用者様があり、ご家族に説明し玄関等のカギをかけている。最近は少しホームに慣れてこられたのか落ち着いてきている。	
			(外部評価) 利用者の転倒があったことがきっかけで、現在4名の方には、ベットから足を下ろすところにセンサーマットを付けて対応されている。又、ひとりで出て行かれる利用者も見られるため、勝手口につながる洗たく場の入口にもセンサーマットを付けておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 常に更衣時や入浴時に異常がないか気をつけている。小さな気づきも日誌などで申し送り職員間で情報を共有し全員で注意している。業務がきつくなると虐待に結びつく可能性が高くなるので職員のケア・業務の見直しも大切である。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	(自己評価) 権利擁護に関する制度の理解はできているが、職員の異動や新しい職員も増え、今後研修の機会を設けたい。現在活用されている方はいない。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に重要事項説明書などで説明を行い、理解、納得を得ている。また不安や疑問点を聞き取り説明している。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時や家族会などに気軽に話せるような雰囲気づくりに努めている。苦情については、書類に記し、管理者会で報告し反映に努めている。意見箱の設置を行い意見を頂けるよう努めているが意見箱は活用されていない。	
			(外部評価) 年3回、家族会を実施しておられ、ほぼ全員のご家族が参加されている。ご家族も一緒に食事できるよう企画し、今年度は、利用者のご家族が営む食堂で作ってもらったお弁当を囲み、みなでおいしく食事をされた。ご家族同士が知り合いだったことが分かったり、以前の利用者の暮らしぶりを教えてもらう等して、よい機会となったようだ。ご家族の中には、「昔は穏やかな性格だったが、最近は口調がきつくなった」と利用者の様子に戸惑う方もあり、管理者は認知症について少しお話をされたこともあった。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングで意見や提案を話し合ったり、個々の面接を通して聞く機会を設けている。そこで出た意見や提案は、法人のミーティングで伝え反映されるように努めている。	
			(外部評価) 前回の外部評価を受け、職員のスキルアップ研修について話し合わせ、今年度は、毎月内部研修を行うことに決め、職員1名が「知りたいこと」「勉強したいこと」をテーマに挙げ、自分で調べて発表することに取り組まれた。「転倒事故の予防と対策」「感染予防対策」「食中毒、便秘、下痢時の対応」等のテーマで実施された。又、法人全体で取り組む年2回の「Q.C.(疑問等を改善していく会)では、事業所の目標「口腔体操と嚥下について」の取り組みを報告された。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 半期ごとに自己目標を掲げ自己評価を行っている。業務内容の見直しは職員間で話し合い行っている。利用者様も高齢になりリスクが高くなってきており精神的な環境整備も必要になって来ている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 資格修得の支援をしてくれ、研修にも参加させてくれる。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 外部研修・相互研修・四国中央市GH交流会などに参加し、同業者と交流し情報交換の機会を持っている。研修で得た情報は、ミーティングなどで報告し話し合いサービスの向上に努めている。	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人、家族から多くの情報と想いを聴くように努めている。入居後は日々の関わりを大切に、信頼関係が築けるよう、寄り添いを大切に、言葉や表情の変化を見逃さないように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 職員全員が面会時など家族と話しやすい雰囲気づくりに努めている。面会時などに近況報告を行い要望などを聴くことができるよう努めている。相談を受けた時は、傾聴し丁寧に対応し受け止めるようにしている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居前の情報収集を行い、本人や家族の希望等を聴き、職員間で話し合いサービス提供が出来るように努めている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員間で話し合い、利用者の出来ること・得意なことを見極め、得意な事をお願いしたり、時には教えてもらい共に楽しく生活できるように努めている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の面会時には近況報告をし、通院、家族会、誕生会の参加を呼びかけ、共に支えていく関係を築いている。また利用者が不安になっている時など電話でご家族と話してもらったり面会をお願いし協力を得ている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人や家族から情報を得て関係が途切れないように努めている。(年賀状・暑中見舞いを送付)またお友達に手紙を書くなど支援に努めている。 (外部評価) 盆や正月には利用者が外泊できるようご家族にお願いされており、今年は2名の方が外泊をされた。ご自宅に帰ることが難しい利用者のご家族の中には、おせち料理を持参して居室で過ごされる方もいる。ゆっくり過ごせるよう職員は、テーブルやいすを用意された。以前の趣味仲間が会いに来られることもある。事業所では、面会に来てくれた友人やご家族に年賀状や暑中見舞い、お礼状を出し、関係を続けていけるよう取り組まれている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ソファーに座る位置など配慮し寛げる雰囲気を作ったり、役割を個別に変えるなど、一人ひとりを理解しその時々のお思いに合わせた関わりを持ち孤立しないように努めているがレベルの違いがあり関わりが難しくなっている。	
22		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 同法人の療養病棟に移られた方は時々面会に行くが相談や支援の機会はない。入院された時はお見舞いに行き出来るだけ関係を持つよう心掛けている。	
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で本人の思いを知り、ミーティング等で話し合い、暮らし方の希望や意向の把握に努め、また今まで歩んできた暮らしを大切に自己決定を優先できる支援に努めている。体調の変化や表情などにも気を配りその人らしい生活ができるように努めている。 (外部評価) 職員は、日々の利用者との関わりの中で聞いた、「寂しいから一緒にあって」「一緒に寝て」「寝てばかりおっちはいかな。身体を動かさんと。」等の言葉を書き留め、思いや意向を探るようにされている。時には、ご家族から利用者の以前の暮らしぶりをお聞きすることもある。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活の会話での聞き取りや家族や親類の協力で得た情報(アセスメント表)を、職員間で共有するように努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日誌や申し送りノート、バイタル測定状況など確認しながらスタッフ間で密に連絡を取り、小さな変化を見落とさないように、現状の把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	(自己評価)	<p>利用者個々のアセスメントを介護計画につなげる仕組みを作り、利用者一人ひとりが自分らしい暮らしを続けられるよう、計画を工夫されてみてはどうだろうか。</p>
			<p>家族の面会時、家族会や運営推進会議の後、時間をつくり話し合い情報を得、本人やご家族の希望に添うようミーティングで話し合い介護計画を作成している。自分の意思を伝えられない方は健康面や少しでも良い表情をして頂けるように努めている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	(自己評価)	
			<p>ご家族の来訪時には、利用者個々の担当職員が、日々の記録等をもとに、ケアへの意見や要望をうかがい、カンファレンスで話し合って介護計画を作成されている。月1回、担当職員がモニタリングを行い、変更や見直しが必要な場合は、ミーティングで職員全員で話し合っておられる。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			<p>ケアプランの達成状況を日々記録しているので職員間で統一したケアの実践ができ、介護計画の見直しにも活かされている。日々の申し送りや日誌の確認を行い共有できるように努めている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	(自己評価)	
			<p>本人や家族の状況に合わせ柔軟な対応が出来るよう心がけている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	(自己評価)	
			<p>学生ボランティア、傾聴ボランティア、地域の方の慰問(輪の会・音楽療法・童謡唱歌の会など)の協力を得ている。利用者様の個々のレベルにあった支援の在り方が課題となっている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人・家族が希望するかかりつけ医にて受診している。受診時には連絡ノートを使用し、必要に応じ受診時に同行し状況を伝えている。体調を崩した時など訪問看護に連絡をとり指示を仰ぎ支援している。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>利用者の内3名は認知症の専門医、6名は母体法人の病院を、かかりつけ医とされている。週3回、訪問看護師が来られ、利用者の健康管理をしてくれており、24時間対応可能で、利用者の状態に変化があれば連絡するようになっており、指示をもらったり様子を見に来てくれている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>訪問看護、近隣の通所介護の看護職員とも連携を取り、適切な受診や看護が出来るよう支援している。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入院時には情報を提供し、早期退院が出来るよう連絡を取り合っている。職員も面会に行き不安解消に努めている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>早い段階で本人、家族の意向を大切に、主治医とも相談「できること、できないこと」を見極め支援に取り組んでいきたい。</p>	<p>利用者主体の暮らしを支援していくためにも、終末期のあり方についても、利用者やご家族が選ぶことができるよう、事業所でも体制作りをすすめていかれてはどうか。</p>
			<p>(外部評価)</p> <p>今のところ、看取りを希望しているご家族はおられないようだ。事業所では、「医療が必要になった場合は、事業所では対応できない」ことを入居契約時に説明されている。身体状況が悪化した場合は、法人の療養病棟に移ることもでき、ご家族は「何かあれば系列が病院だから」と安心感があるようだ。家族会で看取りの希望をお聞きした際には、ご家族が「一人では判断しにくい」との声があり、管理者は、終末期の希望について、「ご家族や関係者と話し合う機会を持ってほしい。」とお願いされた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署の救命講習を受けている職員はいるが、定期的に訓練は行っていない。職員全員が対応できるよう講習に参加し緊急時対応できるようにしたい。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回防火訓練を行っている。運営推進会議で防火訓練を行い、消防署の方に消火器の使い方を指導して頂いた。地域の方の協力体制も少しずつ築けてきている。 (外部評価) 年2回、防火訓練を実施されている。内1回は、消防署立ち合いで実施された。消防の方からは、「声が小さいから大きな声で火事を知らせるように。」「初期消火、避難が大切である。」とアドバイスがあった。水消火器を使った消火訓練には、利用者も1名参加された。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員間で話し合い、プライバシーを損ねない言葉かけや対応を心掛けている。時に職員のペースになっていることがあり注意したい。 (外部評価) 管理者は職員に、「ゆっくりと利用者に合わせ対応するように」と指導されている。入浴時、脱衣をはずかしがる利用者もあるが、職員は、「同じ女同士だから大丈夫ですよ。」と安心して入浴できるように言葉をかけておられる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の思いや希望を聴き、自己決定出来るよう、声かけなど工夫している。日々の関わりの中で話かけやすい雰囲気づくり、思いを受け止めるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 無理な声かけはせず出来るだけ利用者の希望に沿った支 援に努めているが、職員の勤務人数により、業務に追われ 職員側の意向をあおることがある。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価) 起床時の整容、外出時に洋服を着替えるなどその人らしい 身だしなみが出来るよう支援している。ご家族の協力を得て 馴染みの美容院等を利用したり、家族が居室にてカットや毛 染めをして下さっている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節の行事のメニューや旬の野菜を取り入れ食事を楽しみ ながら、利用者一人ひとりの力を活かし、一緒に調理から片 づけまで行っている。 (外部評価) 利用者には、午前中に昼・夕食分の野菜を切ってもらっている。調 査訪問日、昼食時には、職員が「近所の さんから頂いた大根 ですよ。」と紅白なますの説明を添えられた。利用者からは、「やっ ぱり、なますは美味しいね。」「ええ味しとる。」と感想を言っておら れた。事業所では、「利用者のトイレ誘導等、介助に時間がかかる ようになったため」に、10月から月に10日程度、外部業者から食事 をとるようにされた。盛り付けは事業所で行なっておられる。天ぷら やチキンカツ等、普段あまり作らないメニューがあることで、利用者 は喜ばれるようだ。職員も利用者と同じものを一緒に食べておられ た。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 野菜を中心にバランスよく栄養が偏らないよう配慮し献立を 考えている(職員が一週間当番制で献立をたてる)食事量や 水分摂取量を記録し、不足している場合はおやつなどで補 えるよう支援している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 毎食後、個々に応じた口腔ケアを行い、就寝時には義歯洗 浄を行っている。義歯洗浄を拒否され難しい方もおられる。 時々介助にて洗浄させてもらっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターン表を活用し、定期的なトイレの声かけにより失敗しないよう支援している。声掛けの工夫も行っている。気持ちよく排泄できるよう排泄のサインを見逃さないように努めている。	
			(外部評価) 事業所内にはトイレが3ヶ所あり、内1ヶ所は洋式の便器と男性用便器が設置されている。尿意等の訴えない方に対しては、チェック表をもとに声をかけ、トイレへ誘い支援されている。入居時おむつを使用していた利用者で、尿意、便意があり、ご本人から、「トイレで排泄をしたい」という希望もあり、一日1回の支援から始め、徐々に回数を増やして、現在はリハビリパンツで過されているケースがある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎食にお茶ゼリーなどを付け食物繊維を取り入れるよう工夫している。便秘の方には、のむヨーグルトをプラスして飲んでいただく、身体を動かす(散歩、体操など)など工夫し、服薬は便の状態に合わせて調整している。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 職員の勤務体制により時間帯の変更はあるが利用者一人ひとりにあった入浴方法を支援している。声かけのタイミングや言葉を選ぶことで無理強いをせず、入浴して頂けるよう支援している。	
			(外部評価) 夏場は週3回、冬場は週2回入浴できるように支援されている。シャンプー、ボディソープを事業所で用意し、肌の弱い方には無添加の物を用意されている。入浴を嫌がる方が多く、「足が冷えるからお風呂で温めませんか」等と声をかけるようにされている。現在、車椅子を利用する方で、「浴槽の中に入る事が怖い」「自信がない」という方は、シャワー浴と足浴で対応されている。 気持ちのよい入浴に向けて、利用者個々の支援に工夫を重ねていかれてほしい。この機会を活かして、入浴を楽しむことに向けた支援について、勉強会等を行ってみたいだろうか。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の体調や状況に応じ昼寝を取り入れたり、自由に居室や和室で休息できるようにしている。馴染みの布団や枕を使用。自宅でベッドを使用していなかった方はベッドをはずし安心して眠れるよう支援している。しょうが湯などを飲まれ休まれる方もいる。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々に薬剤情報をファイリングして、いつでも確認できるようにしている。変更があるときは日誌で申し送り、症状の変化に注意している。必要に応じて訪問看護師や主治医に相談している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴や趣味などを活かし個々の能力を発揮出来る場面を提供できるようケアプランに設定し全職員が共通意識を持って支援できるように心がけているが重度化により一人ひとりにゆっくり支援することが難しくなっている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 勤務体制により希望に沿えない時が続くこともあるが、出来る限り実現させようと努力している。重度化により全員での外出は難しくなっている。個別にお花見・紅葉・初詣など外出の機会を作っている。ご家族にも協力を得て買い物・お墓参りなどに連れて行ってもらっている。	
			(外部評価) 初詣や紅葉狩り、近くのコンビニや重要文化財の大柏の木に散歩に出かける等、数名ずつで外出することが多い。春のお花見は全員で出かけておられ、今年もご家族をお誘いし一緒に楽しみたいと考えておられた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の希望により財布を所持している方もいる。雑誌やお菓子の買い物など希望に沿って本人の財布から支払えるよう支援しているがあまり使っていない。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望に沿って支援できている。職員が電話連絡した後、利用者様に代わりご家族と話してもらったりしている。プレゼントが届いたときはお礼の電話をかけていただくよう働きかけている。友達と手紙のやり取りや面会に来て頂けた方もあり今後も継続できるように支援していきたい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>トイレの場所が分かるように名札を掲げ、季節の花やお雛様、五月人形、クリスマスの飾りつけなどを行い季節感をかもしだしている。カーテン、加湿器にて光や湿度の調節の工夫をしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関を入れて廊下に繋がる扉は、3枚の引き戸になっており、車椅子の方もスムーズに通ることができる造りになっている。食堂のテーブルが少し高い利用者もいるが、椅子に座布団を敷いたり、クッションを背もたれに置き、調整されている。足元には、職員が手作りの牛乳パックの足置き台を置いておられた。掘りコタツの間には、塗り絵道具や編みかけの編み物が置いてあり、お好きな時に手に取れるよう見えるところに置いておられる。廊下には、行事や利用者の日常の様子の写真が掲示されている。近所の方からいただいたテニスボールをソファの前のテーブル下に置いており、利用者はテレビを見ながら足裏でころがしておられる。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>気の合う利用者同士で居室で寛がれたり、暖かい日にはウッドデッキで日向ぼっこも楽しめる。リビング・食堂・冬は掘りこたつ等、思い思いに寛がれる居場所を工夫している。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>利用者により個人差はあるが馴染みの物、家族の写真、御主人の位牌など持ち込まれ居心地よく過ごせるように工夫している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室にはベットとタンスが備え付けてあり、利用者ご自宅からコタツテーブルや座布団、マットやテレビ、椅子等を持ち込まれている。タンスの上には旅行時の家族写真や、ご親族からの誕生日・敬老の日のプレゼント、観葉植物等を飾っておられた。個人で新聞をとっている利用者には、居室の窓の外に設置されている郵便受に新聞が届くようになっている。昼食後には、居室で新聞を読んでおられた。息子さんにプレゼントするために赤の毛糸で模様を入れてマフラーを編んでいる方もみられた。ご自分で洋服を選びたい方には、椅子に座ってタンスの整理や洋服選びができるよう、タンスに向い合せるように椅子を置いておられた。近所のコンビニで雑誌を買って読む方もいる。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>居室前に名前と写真を掲示し(居室入口にぬいぐるみや花をつけている方)、廊下やトイレなどには手すりがある。一人ひとりの出来ることを把握・理解し安全に生活できるよう支援している。</p>	